



〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町13-8

NPO法人WORK'S 共同作業所

TEL (075)682-3201 FAX (075)682-3330

URL://www.mediawars.ne.jp/~saba

Eメール:saba@mediawars.ne.jp

2003年6月1日

発行第21号 編集責任者 大崎雅彦

## ～4月から始まった支援費～

の様々な介護支援に関連する支援費事業がスタート

4種類の介護支給があり、そのうちの3種類を僕は利

部分の介護としての項目『身体介護』

、入浴、車いすやベッドへの乗り移り、排泄など、  
をここでしていただいています。

業所と契約した内容の介護のみ受けられます。

時間数使用はできません。

以外の介護も受けられません。



荒木 正幸

要な介護、掃除や洗濯、趣味活動等の主に個人として必要な援助内容について支給

朝、夜間などの介護に使用しています。

原則としてこちらの時間数は使用できません。

レジャー等の趣味活動、会議等への出席など主に外出行動に限定した介護としての

レパーとして支給される項目です。

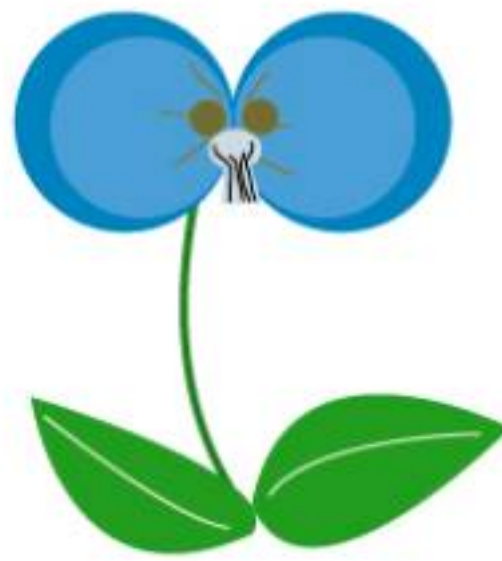
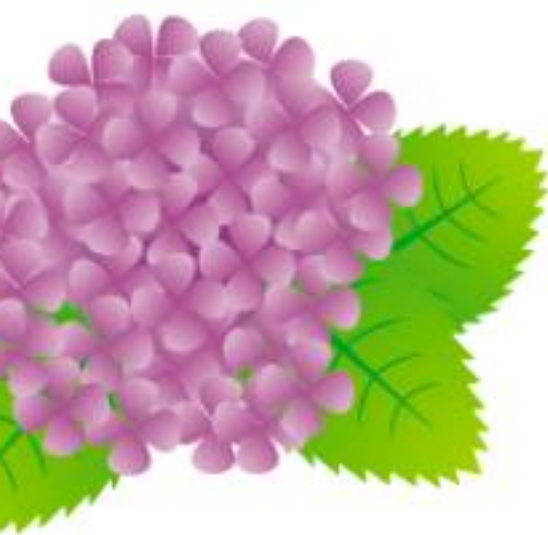
は不足しており契約する事業所により使える時間に違いがあります。京都市以外

す。  
自治体からの支給時間数が増減しますが、京都市の場合は月当たり最大32時間まで

について、上記のような支援費制度をしくことで貴重な国の予算を必要な人に均等に  
というわけです。最初に挙げた介護体系の援助をおこなう事業所と、障害者本人が  
サービスを受けます。上記の内容には、記述の不備があるかも知れませんが、ざっ  
の4月から私たちの生活の中に組み込まれているのです。現状として、支援費事業  
ヶ月の今、介護の境界線のような縛りがやけに多くな  
までが移動介護で、どこからが日常生活支援なのか、  
間違えてばかり、どうなることか不安になったもので  
ようやく慣れてきました。

消えたわけではありません。みなさんご存知の通り、  
わずか4ヶ月前になって、当事者の私たちに何の意見  
支給時間数に上限を設けるという、大変な事を言い出  
動となったことは記憶に新しいことと思います。多く  
前に集まり、そのような措置を撤回するよう断固抗議  
だけは避けられたものの、今後の課題は先送りにされ  
ので、楽観はしてられません。この1月の出来事  
基盤を見つめ直す良い機会となったことは事実です。

が持っている悩みや願いを汲み取り、現実の暮らしを見据えた介護支援の体制が形  
ます。



# 大学卒業について

曲 圭子



今年の春、ワークスの所長はじめ先輩方、そして両親、毎日の私の生活を支えてくれている介護人・友達と本当に多くの方々に支えていただき、佛教大学社会福祉学部を卒業することが出来ました。今入学した頃からのことを思い出すと通信課程は通学課程のように、厳しい受験もなく、書類選考だけで簡単に入学できるとはいえども、入学したから卒業するまでの毎日が自分の根気と時間との戦いでした。入学が決定された翌日に何十冊のテキスト、レポート用紙やスクーリング受講にあたっての必要な書類が送られて来て、幼い頃からの夢だった女子大生になれた嬉しさの反面、どの科目から手をつけて行けば良いのか、また通信教育ならればの与えられたテキストを読んで、これに関して自分なりに参考文献などで調べて、果たして大学生に見合う文章・レポートを書いて、卒業に必要な単位を取得することができるのか言う不安が一杯のまま大学生活がスタートしました。

その日から毎日、どこ行くときでも、絶えず大学のテキストを携帯し、親の車・電車などでの移動時などにテキストを読み、家に帰ってたらパソコンに向かい、テキスト・参考文献を照らし合わせ、自分なりのノートを作成し、そのノートをもとに自分の考えや思いを書き加えながら、1科目約8～16枚のレポートを仕上げ、大学に送付するという作業の繰り返しでした。私は、文字一つを打つのもかなり時間が懸かるため、1科目のレポートも2ヶ月かかって仕上げるのがやっとでした。

いつも自分の部屋に山積みされている大学のテキストを見る度に、気が遠くなり、「こんな勉強方法でいいのか」と自分を責めたり、「やっぱり自分は大学卒業することは無理なのかなあ」と思い諦め挫折しそうになったこともしばしばありました。でもスクーリングに行くたびに様々な障害を持つ仲間・通学課程のボランティアサークルの仲間と出会い、その仲間たちと親しくなる中で、当時、兵庫の実家で両親の見守りのもとで生活し、また両親に車で送迎されてスクーリングに通っていた私にとって、数多くの刺激をえることができ、また仲間達で文通などをして「一緒に頑張ろう」という一つの励みとなり、6年と言う長い年月が懸かりましたが、念願の卒業証書を得ることができました。

これからも大学で学んだことやワークスの日々の仕事の中で積んできた経験を生かしながら少しずつでも前進できるように、1歩1歩確実に歩いていきたく思っています。

最後になりましたが、この紙面をお借りして、5歳までお座りさえも間にならなかった寝たりきりだった私に一日4回も過酷なりハビリをしてくれ、大学まで行かせてくれた両親、私のより良い学生生活を支えてくれた介護人・通学課程の社会福祉研究会の仲間・多くの友人にお礼を言わせて頂きます。

本当に有難うございました。

# お花見について

中嶋秀人

4月10日（木）毎年恒例の行事、花見を開いた。  
去年の12月の忘年会に引き続いて、幹事をした。  
忘年会ではビールしか飲まなかったの、あまり酔わなかった。

お花見では、午前中から弁当を食べながらビールと白ワインを飲んだ

（特にワインはたくさん飲んだ）。

喉が渴いていたので「ガガッ」と水のように飲んだみたいだ。

桜の木の下で、ハラハラと落ちる薄いピンクの花びらを見ながら、気持ちよく昼寝をした。

昔、高校の漢語の時間に習った、「春眠暁を覚えず」の心境である。

気持ちの良い花見日和だった。



# バリアフリー2003

山中泰紀



2003年4月24日(木)にインテックス大阪へバリアフリー2003に行きました。初日だった事もあり大勢の人が、観に来ていました。

僕はバリアフリー展というのは始めて行ったのですが、こんなにも福祉機器のメーカーがあるのには驚きました。

色々と展示してあった中で一つ目に留まったのが、街中でよく見かける銀色の格子状の溝で従来のものは、車イスの前輪部分がはまることであってかなり危険なんです。展示してあった物は溝が網目になっているので前輪もはまることなく、なお且つ、今までの役割も損ねないので、ホントよく出来ているなあと思ったと同時に街にもこういう物を多く取り入れてくれると、「僕らも安心して暮らせるのになあ」って感じました。いい勉強になりました。

## 総会報告

平成15年4月22日(火)に今年度の総会が、南区九条の「京都テルサ」で開かれました。

早いめにお昼御飯をすませて、ワークス共同作業所を、電動車いす、歩く人に手動車いすを押してもらってお話ししながらテルサへ、メンバーが急ぎました。広い一室は暖かくて気持ち良い中で、14年度の会計表を見て今年度は、昨年より頑張っていかなければと、思いました。厳しい世の中でパソコンでの仕事で頑張る



には、仕事を探さないと儲けが低いことは分かりますが予算の少ない、市から助成金も低いと、これからの仕事のやり方を考え無くては成らない事が分かりました。代表役の5人、理事役の人たちのにこやかな顔で対応して下さり落ち着きも出てきました。司会は荒木さん、左から順番に次々と意見が出てこれからの仕事もがんばろうと、強く感じました。最後にお菓子と飲み物が出て美味しく頂き解散となりました。

# ～こんな出来事～

- 2003年03月17日（月） 四街道養護学校教諭 見学「重度の障害のある生徒の就労に向けた職業教育に関する研究」
- 2003年03月18日（火） 福祉のまち推進協議会 街頭啓発活動に参加、  
京都駅中央口伊勢丹前
- 2003年04月10日（木） 松尾橋西詰北で花見
- 2003年04月22日（火） NPOワークス第一回定期総会、京都テルサ
- 2003年04月24日（木） バリアフリー2003（インテックス大阪）へ見学
- 

今年のワークスの夏季休暇は  
8月9日（土）～8月17日（日）  
とします。

---



## 編集後記

初めての編集係りが回ってきて私は、メンバー人のたちに頼みました。それぞれに早く書いてくださってひと安心いたしました。今回のページをたくさんの方に、お読み頂ければと思います。よろしくお願い致します。

岩本永子

---